



ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2014年4月1日

4月号・第147号

奈良・人と自然の会

会長 藤田 秀 憲



仲間入りしましたー

例会年間計画 (保存版)



Contents



多士済々.....	①	青垣春秋.....	⑬
Monthly Repo.ならやま.....	②	俳句百景.....	⑭
里山の今.....	③ ④	癒しの散歩道 & ならやま茶論.....	⑮
Galleryならやま.....	⑤	仲間入りしました.....	⑮
冬鳥探鳥会.....	⑥	ならやま景観整備.....	⑰
「やってみよう! しいたけつくり!」.....	⑦	行事案内①.....	⑱
自然教室チームだより.....	⑧	行事案内② & 仲間入りしました.....	⑲
情報発信.....	⑨	行事案内③ & 奈良学クイズ.....	⑳
例会年間計画.....	⑩ ⑪	幹事会報告・ペン画に寄せて.....	㉑
やさしい昆虫講座④.....	⑫	奈良学クイズ続・編集後記.....	㉒

会報紙はカラーでホームページに掲載しています。 URL <http://www.naranature.com>



いつも 全力投球 川勝孝雄さん

顧問 阿部 和生

「阿部さん 直ったよー！」整備が必要な“マキタM244 スライド式マルノコ”が復活した朗報の御電話でした。「えっ！つい数時間前に預けたばかりなのに」と 不思議さと「そんな馬鹿な」とあっけにとられたものです。まともな“取り扱い説明書”が見つからず 私が持ち帰って取り組んでみたものの 整備に手を焼いて放棄、急遽、名医川勝さんに「使えるようにしてほしい」と依頼 手渡した数時間後なのですもの。

何時もながら「よっしゃ 分かった！」と引き受けて整備をしてくれたのです。機械に限らずとにかく器用 どうしたらいいのか？と工夫されます。ついつい あれも、これもと依頼する事が増えてしまいます。

川勝さんは、平成13年9月の「奈良・人と自然の会」設立以来の盟友の一人です。19年からの「ならやま景観整備事業」に関わってからは随分と「力」になってもらいました。ベースキャンプの溝蓋作り、資金の乏しかったころ以来の 工作台兼用のベンチ作り、炊事関係の事、ぬかるみの観察路整備など等 枚挙にいとまがありません。



格納庫の製作中

毎年のように増える機具類へのメンテナンスも いつしか気配りしてくれます。発電機のお

イル交換も時期を見ていつしか済ませています。

「道具は、購入時高くても 品質の良いものを買いや… その代わり手入れをきちんとしなアカんで…」 が口癖 そして安川さんと同じ「整理整頓が大事」と事あるごとに諫言 でもなかなかキチンとすることは大変です。裏方の目立たない作業 を黙々と務められる姿には 頭が下がります。「ぐずぐず ぼんやりが嫌、実践・動け！」が信条と聞くと納得しますが なかなか出来ない事だといつも感心させられます。

目立たなくても自分でできることは 探してでもやり通す そうした貴重なお人柄です。作る、工夫するといった事が 心底好きで おそらく社会人の時も内容は違っても骨身を惜しまず頑張ってこられたに違いないと思えます。

「ソバクラブ」が始まって 爾来有力メンバーの一人です。

めきめきと腕をあげられ 美味しくそばの味を引き出す

「力」の源泉が、ご家庭やお孫さんをこよなく愛されている事にあるのではないかと

推測しています。このソバ打ちの時は“ならやま”の作業時とはまた一味違った顔が印象に残ります。

イベントでの指導はもちろんですが、その時の目に見えない気配りをされ、スムーズな運営に協力されます。この「会」が、現在益々活躍前進している事を 凄いな！凄いな！良い人が一杯や！とつぶやきます。

励みになる一言です。



Monthly Rep. ならやま

◆2月27日(木) 雨 活動中止

前日の雨予報 90%で中止。予報通り終日雨となった。

◆3月1日(土) 曇り 34名+47名

しいたけ菌打ちイベント(GG プロジェクト)を実施。午前中はしいたけ菌打ち、午後は遊びの広場で山遊び。子ども達、父兄に喜んでもらえた。

◆3月6日(木) 曇り 58名+2名

一般的に曇りであったが、吹雪いたり、お日様が顔を出したりの日まぐるしい一日であった。その雪降る中で男料理教室のメンバーが奮闘して豚汁づくり。ありがたく頂戴する。



男料理教室メンバーの奮闘ぶり

四阿(あずまや)建設の基礎工事が進んでいる。また、彩の森の自転車道では業者によってガードレールの付け替え工事が行われた。

自転車道沿いの大きななら枯れのコナラは県によって伐採が終了していた。シニア自然大学から2名の実習生が来られた。



気温が暖かったせいか、シイタケがいっぱい収穫できた。

里山Gは、しいたけの菌打

ち 260 本を完了。

10 日の自然観察会のコース上にあった枯れ木を処分し、安全確保を図った。



育苗ハウス

エコファームGは、特製ハウス内でナス、トマトの播種。立派な苗が出来ることを期待。ダイコン畑跡地の耕起。

景観Gは、自転車道周辺のゴミ拾いと彩りの森の山際の笹刈り。ビオトープでは水生生物調査を開始。トケイソウ花壇の除草。

第5地区では、伐採したスギ材の整理と笹刈り。

◆3月10日(月) 曇り一時雪 23名

自然観察会をならやま里山林と自然林で実施。パトロール班が応援。

◆3月13日、20日(木) 雨 活動中止

2週続けて雨となった。

◆3月21日(金) 曇り 31名

前日の活動中止を受け、急遽臨時に活動日を設けた。終日寒く、曇り、晴れ、雪、あられと目まぐるしく天気が入れ替わった。

里山Gは、カシナガ伐採木の後始末。まだかなり残っている。エコファームGは、篠竹の確保とダイコン跡地の畝たて。

景観Gは、彩の森の笹刈り、ビオトープ池の生物調査(まだ生き物は少ない)、日陰植物花壇の除草。第5地区の堆肥まき。

四阿(あずまや)の建設が瓦葺きの段階に入った。

(木村 裕)

ならやま花だより

平岡 久美

ブルーの花びらを精一杯広げ
まとまって咲いているオオイヌノフ
グリに、思わず見とれてしまいます。

そのすぐ傍には、ホトケノザとヒメオドリコソ
ウが、それぞれたくさん集まって、競いあうよ
うに赤紫の花を咲かせています。

そんな華やかな春の花たちの中に、少し遠慮
がちに、タネツケバナが小さな花をつけていま
す。白い花びらは4枚、花の大きさはわずか4
ミリほど、これでは見立たないですね。だから
でしょうか、10 から 20 の花を枝先に集めて咲
きます。よく見ると清楚でとても可愛いのです。
秋に芽を出し、ロゼットで厳しい冬を越して、
今花の盛りを迎えています。

かつて、水田一面にタネツケバナが生えてい
た光景が思い出されますが、最近は少なくなっ
たようです。

種もみを水につけて種まきの準備をする頃に
花をつけるので、この名がついたと言われてい
ます。

アブラナ科

花* 4弁花

十字花

雄しべ 6本

実*長さ2センチ位の

細長い円柱形

上向きに立つ

葉や葉柄、茎に

毛が生えている。



タネツケバナ

[草花] オオイヌノフグリ、オランダミミナ
グサ、セイヨウタンポポ、タネツケバナ、ナズ
ナ、ハコベ、ホトケノザ、ヒメオドリコソウ

[木の花] アセビ、ウメ(紅白)、クロモジ、ヒ
サカキ、サンシュユ、ミツマタ、ヤブツバキ

[花壇] スイセン、パンジー、ムラサキハナナ

里山の

今



ペタキン日記 23

羽尻 嵩

昨年の夏まではペタキンの育種は順
調に進んでいた。しかし、本年1月の
時点では、ペタキンは7匹となり、タ

ガイは15体が11個体となり、20数匹いたヨシ
ノボリも3匹となってしまうなど、惨憺たる結
果になった。[その理由は先月号までに触れてあ
るのでここでは省略します。]この失敗を反省し
て、以下のようなタナゴ池の育種環境の改善点
を考えました。

1. ペタキンの数の激減とタガイの減少の大き
な原因は池へのカワセミの侵入によるとらえ、
カワセミの侵入を完全に防ぐため、風雪で破れ
たネットをより強度のある新しいネットに取り
換える。(新ネットは3月13日にセット完了)
2. 魚の生活空間を広げるため、池の水深を下段
全体40cm、上段全体30cmとする。

(昨年11月末完了)

3. 池の数箇所にはクワイの種芋を移植するなど
良好な水質と水温を保つための対策をとる。

(4月に行う予定)

4. 近大の池で育種されていたペタキンをタナ
ゴ池に追加放流してもらう。

(3月13日、36匹のペタキンを追加放流)

5. タガイを入れる2個のプランターをより大
きなもの1個にして、プランターの下層に山土
を入れてタガイのエサとなる植物プランクトン
の増加をめざし、また、池の下段の一部に砂を
入れて稚貝の育種環境を改善する。(1月に完了)
6. シマヒレヨシノボリについては、近大班に
木津川水系で捕獲してもらい、追加放流する。
以上。4月から近大班の新しい担当者が決まり
ます。また皆さんと共に育種に励みましょう。



害虫・益虫

菊川年明



本格的な春の到来で、昆虫の世界も賑やかになる。昆虫にはたくさんの種類があるが、彼らに対し害虫・益虫という観点からの区分がある。しかし、害虫防除や益虫利用の分野の専門家は別として、私たち素人は、よく目に付く十指で数えられる程度の昆虫を害虫・益虫に分けていることが多いのではないだろうか。

害虫でも農作物・樹木害虫、吸血害虫、皮膚に炎症をもたらす害虫などは確かに有害であるが、ゴキブリのように実害なしとはしないが主に不潔感、不気味という観点から不快害虫として退治の対象にされているものもある。害虫の種類は専門家のリストにはたくさん挙げられているが、私たちの感覚ではアブラナ科の野菜を食害するアオムシ(モンシロチョウの幼虫)、柑橘類などにつくイモムシ(ナミアゲハの幼虫など)、街路樹の毛虫、広汎な農作物を荒らすマメコガネ、各種アブラムシ、吸血の力や皮膚に炎症をもたらすドクガ類(成虫・幼虫)などが主なところではないだろうか。

益虫ではテントウムシ類、トンボ類が真っ先に思い浮かぶ。テントウムシ類はニジュウヤホシテントウのようなナス科野菜の大害虫もいるが、概してアブラムシ退治の天敵であり、トンボは害虫を捕食してくれる味方である。

害虫の定義は専門的にきちんと決まっていると思うが、素人考えながら、加害は当然としても大体は発生数が大変多いということが要素に加わっていると思う。栽培植物を食べる昆虫でも希な種類の昆虫であれば害虫扱いはされていないようである。それにしても、生まれながらにして害虫と呼ばれる昆虫は可哀相でもある。

(益虫の代表選手 ナナホシテントウ)



パトロール班 Repo

小島武雄

今日は、自然観察の下見会「春のならやまを楽しむ」のテーマで、いつものルートですが、ベースキャンプからの道、厳しい冬の寒さを耐えて生きて来た色んな形のロゼットを観ながら行くと、道端には小さなオオイヌノフグリの可愛い紫がたくさん見つかります。ホトケノザのピンクなど、小道にもほのかな春色が付いて来ました。何も無かった木の枝にも、あっという間に沢山の若芽が紅く膨らんでいます。すべての樹木に何らかの若々しい色がふわーと広がっていきます、待っていた春です。これからの素敵な季節に、この湧き立つような、ならやまの緑と一緒に楽しみましょう。

4月から、ならやまパトロール班の活動報告は、木村宥子さんに替わり私がする事になりました。2012年の11月に活動計画をまとめてから、4つのコースルート設定、急斜面のロープ取り付け、滑り防止の階段作り、丸太の道しるべ、コース標識や名称看板の更新、珍しい樹木の名札、花木の写真表示、希少植物の保護柵、携帯用コース地図、パト装備、危険箇所のルート回避、日誌記録帳、など色々やって来ました。

コース整備は大体出来ています。パトロールスタイルも写真のようにそれなりにかっこよく、観察の実力も付けて。これからは皆さんが、ならやま自然観察路に入る時、4つのコースの、花、樹木、鳥、虫、景観など、森の案内人として活躍したいと思います、乞うご期待。



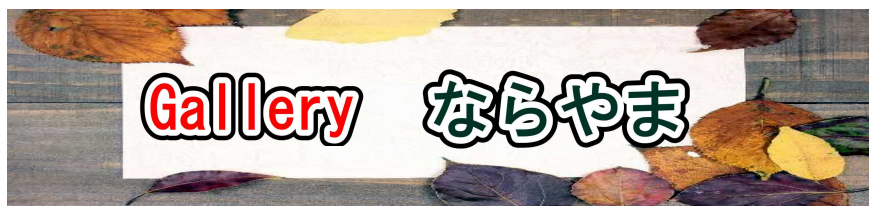


写真 (塩本勝也) 「大雪のならなま・2点」

墨彩画 (羽尻 嵩) 「宴日和」

陶芸 (小島武雄) 「伸び猫」「眠り猫」「猫香炉」



宴
日
和



▲ 大雪のならなま・2点



▲ 眠り猫



▲ 猫香炉



▲ 伸び猫

2月例会・矢田方面

冬鳥探鳥会報告

雪が多くて寒い日が続いたあとの2/25(火)、
久し振りに暖かい日になり参加者18名と賑わい
ました。 今回のコースは、昨年、野鳥の会奈良
支部から発行した『奈良の探鳥地』で私が担当
したコース《富雄駅→矢田子供の森》プラス→
南生駒駅です。前半の富雄川で沢山の鳥(カモや
イソヒヨドリ・イソシギ)たちが出て大いに盛り
上がりつつ、春の訪れを感じながらゆっくり歩
きました。最後は「足湯」で今日の疲れを癒し
て一味違う探鳥会になりました。



昨年春、野鳥の会奈良支部から『奈良の 野鳥
ものがたり』を発行し、私は「イソヒヨドリ」
を担当しております。図書館にもありますので
ご高覧頂ければ嬉しいです。

イソヒヨドリ 最近の大繁栄の原因は?
…………… 小田 久美子

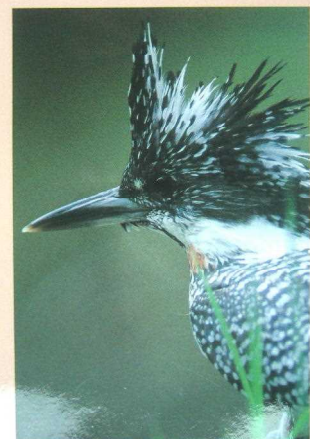
名前の由来と住む環境
めずらしく雌雄どちらも上手な歌い手
本の中からのエピソード
奈良県のイソヒヨドリ・データーの整理
私の三つの思い出の中のイソヒヨドリ
初トライ「子育て観察日記」 他



奈良の野鳥 ものがたり

— 今、自然におきていること —

小船武司 監修 日本野鳥の会奈良支部 編著



トンボ出版

やってみよう!! しいたけづくり!

3月1日(土) シイタケのホダ木づくりイベント「やってみよう!! しいたけづくり!」を開催しました。

一般公募により応募のあった応募者と佐保台小学校の放課後こども教室よりの応募者、さらに当日の飛び入り参加もあり、幼児を含め20数名の子どもたちとその保護者および佐保台小こども教室のコーディネーター等関係者を合わせ、総数40名を超える参加者となりました。



午後からの雨が気になる一日の始まりでしたが、注意事項や今日のスケジュールを聞いた後、子どもたちはちょっと大きめのヘルメットをかぶって、しいたけの菌打ち作業現場に向かいました。

一人で持つのもやっとといった大きなホダ木を持って行き、スタッフに電気ドリルで穴を開けてもらって自分で木を切って作った打ち込み棒や木槌でしいたけの種菌をトントンとしっかり埋め込みました。

たくさんのシイタケができるのが楽しみです。



ならやまで栽培された野菜がたくさん入った美味しい豚汁と持参のおにぎりなどのお弁当を食べた後、2組に分かれて里山散策をしながら、山の中にあるホダ場のシイタケの観察と採取にでかけました。



ニョキニョキと生えているシイタケにびっくり、「3本だけ摘み取っていいよ」のリーダーの声

に、子どもたちは初めての体験をしました。

摘み取ったシイタケは分けて、シイタケが生えた短くて細い小さなミニホダ木と一緒に土産として持って帰りました。



そのあとは里山でしかできない遊びです。

木の枝にぶら下がったロープでのブランコや丸太渡り、ハシゴを使つての木のぼりなど。

いつもは静かな里山に子どもたちの元気な声が聞こえる一日となりました。



本年は Green Gift プロジェクトイベント(当会主催・日本NPOセンター共催・東京海上日動火災(株)協賛)の第一弾として実施いたしました。(高本 実男)

自然教室チームだより

3月の自然観察会

「春のならやまを楽しむ」実施報告

3月10日本年度第2回目のならやま自然観察会を実施しました。23名の参加者がパトロール班の皆さんの道案内で、3班に分かれて春のならやまを楽しみました。

歩いたコースはベースキャンプ⇒学びの森⇒見晴らしの辻⇒鳥観の出合⇒赤岳⇒コシダの辻⇒オオタカの出合⇒谷の出合⇒赤岳口⇒佐保自然の森⇒竹の子平⇒遊びの森出合⇒つつじの道⇒ビオトープ⇒ベースキャンプでした。

「ならやまの奥の道を初めて歩いた」、「観察路が整備されており分かりやすかった」、「こんなに整備され安全上問題が無いようだから、もっと山に入り自然を楽しむようにしたらよい」などといった感想がありました。

歩きながら随所に今咲いている花々、出番を待つ草木の姿、そして秋の名残などを見つけて楽しく観察をしました。

そうした中6つのポイントで植物やビオトープの生き物のインプリ(=説明)がおこなわれ、担当者の説明に感心しながら聞き入りました。

サカキとヒサカキではその違いに「納得!」、クロモジでは黄色い小さな花を咲かせている姿に「がんばれよ!」、アセビでは可憐な花がいっぱいなのに毒があるとのことで「その蜜はなめられるの?」と素朴な質問、ヤマコウバシではまだ落ちずにがんばっている葉っぱが受験のお守りに使われるとのことで「うちでも今度使おう!」、ビオトープの生き物の説明では思わず「かわいい!」の声、ミツマタでは他所からいただいてきたという今咲いている実物の花に「すごい!」などといった賑やかな感嘆の声が上がりました。

インプリについては「とてもよく分かった」「五感に訴えての



説明が良い」「よく調べて準備されており感心した」などの感想があり、好評でした。担当した方々も参加者が熱心に聞いてくれ、また質問をしてくれるなどとても気持ちよくできたと喜んでいました。

午後の自然遊びではニッケイの葉の香り、ヤマモモの葉巻笛、堅い葉と柔らかい葉を組み合わせ

た、アラカシの葉のトンビ、イヌマキの葉の手裏剣などを

楽しみましたが、天候が急変し雪が激しくなったため、途中で切り上げました。

参加したみなさんは殆どの方が「とても楽しかった」との感想を述べておられました。「できればいろいろな季節を通してこうした自然観察会ができるとよいな」という意見もありました。(倉田 晃)



4月の自然観察会のお知らせ

「万葉の苑」の自然観察

自然教室チームでは4月の打合せ会終了後のひと時を鴻池運動場にある「万葉の苑」で自然観察をして過ごします。

自然観察に興味のある方はご参加ください。

1. 日時：4月15日(火) 13時~15時の予定
2. 集合：奈良市ボランティアセンター入口前
12時50分集合
3. 持参物：飲み物、ルーペなど自然観察用具
4. 担当：倉田 晃

4月のアースデー 2014 in なら 自然観察会について

1. 日時：4月20日午前11時と午後1時
2. 場所：明日香村 石舞台近辺
3. 内容：「植物はすごい!!」をテーマに植物の不思議を自然教室チームで案内する。
4. 参加希望：当日現地にお越しください。

自然環境保全の意義などを訴え！

情報
発信

つくろう！
ぶじかえる・ストラップ！

「ネイチャーなら」会報印刷並びに「ならやま委員会」会場として、日頃お世話になっている奈良市ボランティアセンター（奈良市法蓮町1702-1）では、毎月第2土曜日をボランティアサロンの日と決め、登録団体の中から毎回一団体を選び活動紹介の場を提供している。

参加は申し込み不要にて参加費も無料、1階講話スペースを会場に講話中には飲み物とお菓子も用意され和やかな雰囲気の中、お互いの活動を理解する場としてのみならず会員相互の親睦の場ともなっている。

今回3月8日（土）に開催されたボランティアサロンでは当会が指名を受け、藤田会長が出席、パワーポイントを使用し「人と自然との調和により学べる私たちの生活」をテーマに、当会設立時の話に始まり現在取組中の Green Gift プロジェクトに至るまでの活動を幅広く紹介、最近のナラ枯れ対策にも触れ、自然環境保全の意義、自然環境教育の重要性を参加者の皆様に訴えました。

参加者の皆様には非常に熱心に耳を傾けて頂き、午前10時から12時までの持ち時間もあっという間に過ぎてしまいましたが、「こんなに身近な所でこのような活発な活動をされている事を初めて知りました。」と、皆様一様に感心しておられました。

次回は「はじめての手話体験」と題した講演が予定されています。これを機会に皆様にも同センターに足をお運び頂き、各種ボランティア団体の活動にも興味を持って頂く切欠として頂ければと思います。（辻本信一）



席、パワーポイントを使用し「人と自然との調和により学べる私たちの生活」をテーマに、当会設立

3月8日、9日の2日間、佐保川地域ふれあい会館の開館10周年を記念して「さあ～次の10年へ』『子どもの笑顔、100歳の笑顔 健康あふれる佐保川』をテーマに”ふれあい祭”が開催されました。晴天に恵まれ2日間で、延べ1100名を越える人達が来場され、大成功を収めることができました。

奈良・人と自然の会からは、『つくろう！ぶじかえる・ストラップ！』の竹の節を活用したクラフトで参加出店。事前に準備した竹の節200個は、小学生達ちびっ子やお母さん達が途切れることなくチャレンジしていただき、初日の8日午後1時から約2時間たらずで全部出払う盛況ぶりでした。机に飾ってあった他の作品を見て、「こんなのをつくりたい」とリクエストしてくれる子も沢山ありました。

GGプロジェクト（5月3日）”お山を歩こう！”の案内パンフを見て、今度は「『こののぼり』作りをやってみよう」と楽しみにしてくれる様子も散見され、「ふれあい祭」に参加したことで、地域の方々に会の活動などをPRするのに良い機会であったと思います。



多忙な中、お手伝いいただいた藤田会長・塩本事務局長・太田さん、ご苦労様でした。

（鈴木末一）



26 年度例会年間計画 【保存版】

平成 26 年度の「例会年間計画」です。今年度も多くの方のご参加をお待ちしています。

月	日	曜	企画テーマ	企画ポイント	担当者
4	7	月	春季ハイキング	京都・八幡市「石清水八幡宮（男山）」から淀川河川公園「背割堤」へ桜探訪。	八木・寺田
5	14	水	自然観察会Ⅰ （自然教室チーム）	新緑の「生駒山」の植生観察。	高本・平岡
6	9	月	歴史・文化探訪Ⅰ （歴史文化クラブ）	「奥明日香」に万葉集の世界を訪ねます。	杉本・寺田
7	22	火	健康ウォーキング	緑陰の「矢田丘陵」・「矢田寺」から「松尾寺」への道を歩きます。	羽尻・木村
8	4	月	夏季自然研修会	高山植物の宝庫「伊吹山」（標高 1377m）山頂へ、貸切バスで訪ねます。	鈴木・富井 青木
9	下旬		街道ハイキング	高野山の信仰の道 「高野山 町石道」を歩きます。	境・森
10	中旬		一泊研修旅行	京都府美山町にある手つかずの天然林 「芦生の森」の秋の自然を堪能します。	川井・青木 寺田・
11	未定		自然観察会Ⅱ （自然教室チーム）	紅葉の「甘檜の丘」の植生観察。	倉田・辻本
12	8	月	秋季ハイキング —忘年会併催—	晩秋の源氏の里「宇治」を歩きます。 終了後、「忘年会」を開催します。	山中・塩本
1	未定		新春講演会	演題、講師検討中	阿部・藤田
2	未定		冬鳥探鳥会	行先検討中	小田・勝田
3	未定		歴史・文化探訪 （歴史文化クラブ）	早春の「山の辺の道」を、天理から夜都岐神社へ、隠れ古寺を探訪します。	川井・寺田

※1 諸般の事情により、実施日、行先を変更する場合があります。

※2 バス旅行となる 8 月夏季研修会、10 月一泊研修会は事前予約制となります。

※3 裏面に月別の例会解説を載せています。



例会統括 担当 寺田 孝 八木順一

【例会解説】

- ◆ 4月例会 「石清水八幡宮（男山）から淀川河川公園背割堤へ桜探訪」
木津川と宇治川を分ける「背割堤」の巨木のソメイヨシノのトンネルには目を見張ります。毎年 20 万人が訪れるとか。名にし負う「石清水八幡宮」の麓にある京都・八幡市は歴史の町。
- ◆ 5月例会 「新緑の生駒山の植生観察会Ⅰ」 （「自然教室チーム」）
生駒山系は日本の古くからの文化の中心である大和と難波の中央部に位置し、南北に横たわる大山塊です。豊かな自然に恵まれている「生駒山」の植生観察会です。
- ◆ 6月例会 「奥明日香に万葉集の世界を訪ねます。」（「歴史・文化クラブ」）
犬飼万葉記念館代表の水本洋氏の案内で、万葉集の世界を紐解きながら奥明日香を栢森から稲渚へ歩きます。
- ◆ 7月例会 「緑陰の矢田丘陵・矢田寺から松尾寺への道を歩きます。」
日本神話にも語り継がれる「矢田丘陵」は、修験者や参拝客が尾根から尾根へ渡り歩いた変化に富んだ道。道中並走するように流れる小川や森林の息吹に一息入れられます。
- ◆ 8月例会 「高山植物の宝庫伊吹山（標高 1377m）山頂へ、貸切バスで訪ねます」
滋賀県の最高峰「伊吹山」の頂上付近には、約 1700 種の高山植物、130 種の薬草が生育します。梅雨明けからが最適期です。「梅花藻（バイカモ）」で有名な「醒ヶ井」にも立ち寄ります。
- ◆ 9月例会 「高野山の信仰の道 高野山 町石道を歩きます。」
南海高野線「九度山駅」から「上古沢駅」まで、全行程の半分（約 4 時間）近くを歩きます。「町石」とは、鎌倉時代に建てられた道中の“道しるべ”です。今なお昔の面影を残す道です。
- ◆ 10月例会 「京都府美山町にある手つかずの天然林芦生の森の秋の自然を堪能します。」
「芦生の森」は、京都大学の演習研究林です。大学から許可された自然ガイドの案内で、広大なエリアを専用バスで一日周遊します。「芦生山の家」宿泊の一泊研修バス旅行です。
- ◆ 11月例会 「紅葉の甘檜の丘の 植生観察会Ⅱ」 （「自然教室チーム」）
「甘檜の丘」は、なだらかな小高い丘で、飛鳥一帯、大和三山など万葉の地が広く見渡せます。秋空の下、古くから守られている植生観察会です。
- ◆ 12月例会 「晩秋の源氏の里 宇治を歩きます」
「宇治」は平安貴族の別荘地でした。宇治川沿い両岸に点在する寺社や石碑を訪ねながら晩秋の王朝時代をしのびます。終了後、忘年会を開催します。
- ◆ 1月例会 「新春講演会」
演題、講師検討中です。何かご希望がありましたらお寄せください。
- ◆ 2月例会 「冬鳥探鳥会」
探鳥場所検討中です。
- ◆ 3月例会 「早春の山の辺の道を、天理から夜都岐神社へ」（「歴史・文化クラブ」）
天理から夜都岐神社へ、隠れ古寺を探訪しながら往時をしのびます。思わぬ発見があることを楽しみにしています。

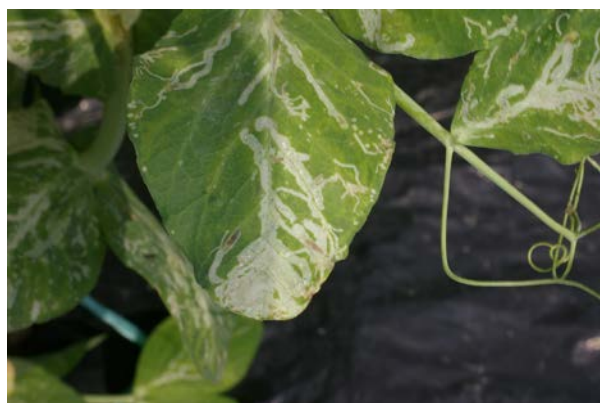


（寺田 孝）

やさしい昆虫講座 42 狭きとも楽しき我が家 木村 裕

ただ1枚の小さな葉を住みかとしているいたって小食の昆虫を紹介します。その代表選手がハエの仲間です。皆さんはハエと言えばイエバエやキンバエに代表される食べ物にたかる蠅、ゴミや腐った物の中に発生するウジを連想されることでしょう。今回取り上げるハエは薄っぺらな葉の中に潜って生活しているので、ハモグリバエと呼ばれ、葉潜蠅とも書きます。成虫のハエも幼虫のウジも汚い物にまったく触れないので、手足は洗ったようにいつも綺麗です。でもお百姓さんには嫌われています。

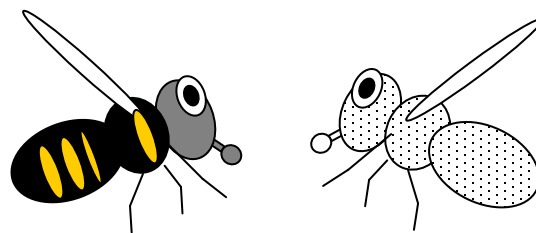
皆さんに最も身近にいて馴染みのあるのは、エンドウの葉に潜るナモグリバエ（菜潜蠅）です。葉に曲がりくねった白い筋をつけるのが特徴です。虫の発生が多いと、葉全体が白い筋で埋まってしまって白っぽくなります。エンドウでは必ずと言ってよいほどごく普通に発生します。この虫は食べ物には好き嫌いがなく、いろいろな野菜や花の葉に潜りますが、樹木の葉は堅くて歯が立たないのか？お呼びではありません。もし樹木の葉に見られた場合は他の昆虫と思ってよいでしょう。



成虫は灰色の小さなハエ（体長は2mm前後）で目立たないのでお目どおりすることはまずありません。お尻に葉を切り裂くための特上の刃物？を持っており、それで葉の表面を傷つけ、そこから染み出てくる汁液を舐めて主食としています。そのため、葉には直径1mm前後の斑点のような丸い色抜けが起こります。発生が多いと葉に点々と被害症状が現れますが、通常は気

づかないと思います。また、産卵も同じように葉を傷つけて葉内に行います。

幼虫は黄緑色のウジで、脚はまったくありません。体を伸び縮みさせながら葉の中（表皮と裏皮の間）でトンネルを掘るように食い進みます。トンネル工の本領発揮です。その食った痕が白い筋となって残りますが、1枚の葉に何匹もの幼虫が食い込むと葉全体がトンネルで占められて白くなり、狭きとも楽しき我が家が登場します。



十分に生長した幼虫はトンネルの片隅で、褐色で先の尖った俵のような蛹になります。

ナモグリバエの仲間には体に黒と黄色のツートンカラーの素敵な服装をしたマメハモグリバエやネギハモグリバエもいます。

ネギハモグリバエは葉ネギ栽培のお百姓さんにとってはにつつきハエ野郎です。貴重な青い葉に遠慮なく白い落書きをするので、商品価値が大幅に下落します。

10年ばかり前から海外から密入国したのが、マメハモグリバエ、ナスハモグリバエ、トマトハモグリバエのトリオです。成虫のハエは色彩、形などはそっくりで、まるで双子ならず三子のように見分けは困難です。当初はハウス栽培の野菜で発生していましたが、今では露地の野菜畑でも大手を振って飛び歩いています。

怖いものなしのようですが、やはり苦手はあります。小さなハチがこの幼虫の体内に寄生します。多いときには半数のハエがこの天敵の餌となって消えてしまいます。一方この天敵は農薬には弱いので、薬剤散布を頻繁に行っている農園では役に立つことはできません。



仏門の巨人 空海 密教のはなし

歴史文化クラブ
川井秀夫

弘法大師『空海』は平安時代を代表する僧侶であると同時に、優れた書家であり、文学者、教育者、科学者、思想家・・・と幾つもの顔を持ち、挫折を乗り越え宇宙の哲理を説いた天才と言える。その壮大な足跡の中で、真言密教について一凡人の雑考を述べてみたい。

【密教とは】

密教という言葉は早くから耳にしていたが、何か怪しげな秘儀を行う邪教の様な理解しか無かったが、諸本を読むうち空海のドラマチックな人生と共に、彼の大宇宙と渾然一体となった心の仏教思想に、驚嘆と洗心の思いに駆られ衝撃を受ける。

難解な部分が多く紙数に限りがあり、俗人には全てを解説できないが分かりやすく言えば、『密』とはインドの経典「大日教」「理趣経」を中心経典とし、宇宙と人間と悟りが一体であると説く。人間の欲望、感覚を全て肯定し、迷いも悟りも『自己の覚知』にあると言う。

深い真実に気づくこと、また他との種々の縁を知ること。父母の恩、他人への恩、国王の恩、三宝（仏・法・僧）の恩と空海はこれを『四恩』とした。

他宗との違いにおいても真言密教の中心仏は釈迦でも阿弥陀でもなく、大日如来であり宇宙観から発した壮大な教理の深遠さが伺える。

閑話休題。

『空海の足跡』

- 804 年 空海入唐。長安青竜寺で密教の高僧恵果に師事。帰国後神護寺に滞在。
- 812 年 顕教の祖最澄に密教思想を灌頂。
- 818 年 高野山に禅院を開く。
- 821 年 讃岐満濃池を修築。823 年 嵯峨天皇より給預され末寺を根本道場にする。

828 年 京都に国民の学校綜芸種智院を創設。

835 年 高野山にて 62 才で入滅。

その後、輩出した高僧により密教寺院が発展を遂げる。

京都 醍醐寺・智積院・山科 勧修寺・

安祥寺・洛西 仁和寺・和泉 根来寺・

奈良 長谷寺・西大寺・鎌倉 極楽寺

がある。

『密教余話』

空海。18 才で大学を辞し、修験の道へ。先達の役小角の修験道「雑密」と称し一線を画す。

真言密教を「正密」「東密」。

最澄の密教を「台密」と呼ぶ。

空海の伝記を読んで感じた事は、その時代の

「若き革命者」であったと思う。

後の道元・日蓮・法然・親鸞など宗祖の名僧たちも然り、彼らはそれぞれの思想を仏心を通じて情熱を傾倒し、民

衆の心の救済を成し遂げた事であろう。

最近、お遍路さんが増えていると聞く。東北大地震の災禍を機に不安と虚しさを感じた多くの日本人が居る事は想像に難くない。

空海が唱える神・仏・人の一体観はどこに消えたのか。仏教は未だ公教育から締め出され神仏分離・廃仏毀釈の思想が 150 年経た現代に、なお尾を引いて居る。

日本人の精神性の空白が囁かれる今日、神と仏の融合を図り空海の思想を復活させる時ではなかろうか。凡人の杞憂であれば幸いだが。



巨勢寺は礎石のひとつ山椿

古川祐司

三月例会 巨勢の道下見。巨勢寺は巨勢族の氏寺。堂塔・伽藍は無く塔跡に往時を偲ぶ。借景に山椿(藪椿)が咲く。

つらつらの椿のなかに万葉歌

古川祐司

阿吽寺。つらつら椿はまだ蕾み。『つらつら』は連なっている様。有名な万葉歌碑がある。本番の日が楽しみ。

火を囲む里山にまだ余寒かな

八木順一

今年の冬は長い。里山のドラム缶は焚き火絶えず。近づいて作業衣を焦がさぬ様。おー寒む。

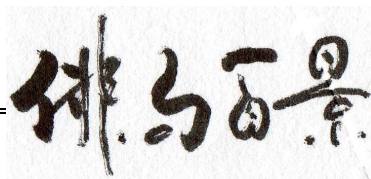
いかなごの宅急便に友の沙汰

八木順一

瀬戸内のいかなごは春の便り。旧友の息災が伝わる。知人の心遣いに感謝。いつまでもお元気で。一杯やるか。

なら山に芽吹きはじまる不揃いに樋口善雄

里山に命の胎動が始まる。遅速はあっても春近し。自然の営みに、この老骨も乾坤の一年にしたい。



監修 川井秀夫

小鰐鶏の呼ぶ声近し畑光る

西谷範子

コジユケイは春の季語。ききなしの「チヨットコイ」が面白い啼き声に誘われ春耕が始まる。人と鳥の共感が良い

花木五倍子木漏れ日受けて金の色

鈴木末一

きぶしの花は早春の季語。淡黄色が季感をそそる。作者は光の魔術で黄金色に見えたのだろう。観察眼の妙。

ファインダー龍松明の火に溢れ

鈴木末一

火の被写体は難しい。松明のクライマックスは尚更だ。レンズが火傷しまつせ。良い作品が撮れたらチョーダイ。

一握の百の命や種おろし

川井秀夫

播種の季節。今年の茄子は実生から育成。果たしてどうか。いよいよ農繁期。ナス・トマトにチャレンジ。皆さんに食していただけるかな。そりゃ やってみな解らんよ！

春浅し白脛足湯に並びをり

川井秀夫

二月野鳥観察。矢田丘陵越え。疲れた足を癒す。女性客に圧倒され男性は遠慮がち。大根足 失礼 失礼。正に壮観でした。

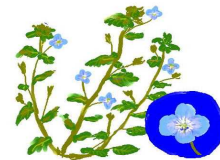


ときめく春への誘い (いざない)

谷川 萬太郎

野に咲く黄色い菜の花達よ つぶらな瞳に映る春景色
 緑豊かな野山を見やれば 童心に帰りしふるさとの宴
 晴れやかな光に揺らめく影を 追っては陽だまりに遊ぶ
 生まれたての初春の幼子が 霧の中の仔羊のように彷徨いて
 春の夢に魅せられし高鳴る胸よ あゝ澄みし青空に舞上がる
 騒めく心もどかしく春風に乗って さあ虹色の旅に出かけよう

希望抱きて歩むこの道を辿れば 遠く霞む山里に春の声が
 そっと彼岸桜の花弁手に取れば 故郷の優しさに酔いしれる
 眩しそうな若葉香る少女の横顔 窓辺に寄り添いて清々しく
 緑のこずえに遊ぶ小鳥気忙しく やがて眩い春空へ飛び立ちぬ
 そよ風に甘い春の訪れの優しさ ときめく貴方の想いは夢心地
 人の歓び春の歌に乗せて今日も 遥かな虹色の空に向かう翼よ



「啓蟄」

竹本雅昭

里山の大王：いぬふぐりが咲きだしたが、
 焚き火の横でバケツに氷が。人々は
 春だ、いやまだ冬だと騒いでいるが
 みんなはどう思う。金子みすずさん
 の詩に倣ってうたっておくれ。

もういいかい
 まあだだよ
 チップの布団はあったかい
 カブトの幼虫丸く寝る



もういいかい
 まあだだよ
 裸でノッポのコナラは寒い
 緑の葉っぱが待ち遠しい

もういいかい
 まあだだよ
 やせた柿の木の下で
 焚き火は人々ひき寄せる

もういいかい
 まあだだよ
 南高梅の蕾はまだ固い
 花と香りが待たれます

里山大王：ありがとうよ。畑ではビニール
 ハウスに一足早く春が来そうだ。
 みんなもあと少し頑張れよ。



仲間入りしました

頑張ります

下村晴文

3月末で仕事を卒業し、4月からフリーになります下村晴文と申します。

ゴルフが趣味で、時間があれば準備運動を兼ねて、徒歩で家から裏山を通して練習場まで通っていました。ある日、キャンプ場横の山の斜面の樹木が伐採され始め、何かの施設ができるのかと見ていますと、そのうち大勢の人が草刈りなどをされています。看板を見ると、景観整備事業とあり、そこで初めて、奈良・人と自然の会の存在を知りました。こんなに近くに、こんなボランティア活動があるのかと興味を持ち、自分も仕事を辞めたら参加したいと思いました。予定より一年早く仕事を辞めて、さっそく4月より入会させていただくように申し込みをしました。申込書を送付していると、同じく3月末で仕事を終える妻も一緒に入会をしたいと申しますので、夫婦で入会をさせていただきたいと思います。まだ後、数年は身体が動くと思いますので、どうか、よろしくお願い申し上げます。

入会のご挨拶

下村節子

この度、入会させていただいた下村節子です。夫が退職を機に入会させていただくということで、どのような活動をされているのかもほとんど知らず、「自然」と「家から歩いて行ける」ということに心が反応し、一緒に入会させていただくことになりました。私自身も、先日満66歳を迎え、この3月末で退職いたします。ここ数年、机と体が接着しているのではないかと考えるほどの状態が続き、極端な運動不足が続いています。私自身の心と体の運動不足が解消し、それがほんの少し何かのお役に立つことになればうれしいです。この道の達人の皆様、よちよち歩きですがよろしくご指導くださいませ。

皆様、初めまして 内河洋文

この度「奈良・人と自然の会」に入会させて頂き大変うれしく思っております。

平成2年に奈良に住居を構え今年で24年目になります。一昨年会社をリタイアするまでの11年間は東京勤務となり单身生活をおくっていました。仕事が趣味の無趣味な人間の為、リタイア後は社会との交流がますます少なくなることを懸念し、いろいろ思案した結果、昨年より放送大学の講座を受講しております。

また、町内会等の地元での交流も皆無であり、このままでは世間が広がらないなあと感じるようになって来た時に、幹事の富井さんに誘って頂きました。

こんな私ですが、自然の中で身体を動かす畑や山の仕事は是非やってみたい事のひとつです。出来るだけ当会の活動に参加し、皆様と親交を深めたいと思っております。最後に、当会の活動は私にとって初めての試みとなりますが、皆様の足手まといとならないよう、少しずつ勉強をしていきますので、ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

進路ガイダンスに出席して 大井 和雄

3月15日にシニア自然大学校を修了することが出来ました。この1年は楽しく又貴重な経験、体験をさせて頂いたと感謝の気持ちでいっぱいです。しかし教えて頂いたことがどれほど身に付いたかと言うと、はなはだ疑問のあるところ です。楽しかっただけでは終われないと色々進路を考えていたのですが、同じ緑組の友人達の選択を聞いては右往左往する体たらくで我ながら決断力のなさに情けない思いをしていました。そんな折、進路ガイダンスに出席してあちらこちらと歩きまわり、「うん？なんとなくここがいいのかな？」と思ったのが奈良・人と自然の会でした。もともと奈良の歴史や文化、風土など以前から興味を持っていましたので、そこで学ばせて頂き、少しでもお役に立てればと思っています。皆様方のご指導をお願いいたします。

ならやま景観整備

活動予定日

4月	3 (木) 24 (木)	10 (木)	17 (木)
5月	1 (木) 22 (木)	8 (木) 29 (木)	15 (木)

- ◆ 場所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林
[ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に
広がる里山林地]
- ◆ 集合：現地ベースキャンプ地・午前9時
- ◆ 終了予定：午後3時

*.+ ★ ————— *.+ ★ ————— *.+ ★ —————

4月3日

- <里山Gr> 伐採済コナラの薪・焼却用玉切り
枝葉整理、燻蒸処理
- <工房-Gr>
有機野菜&古代米：里芋畑整備、豌豆蔓誘引、
玉葱畑、除草
蕎麦畑：チップ撒き（早川畑）
果樹園：梅林の草引き
第五地区 橘苗（30本）植付けと養生
- <景観Gr> B C、彩の道草刈り・
駐車場周辺 草刈
夏花種まき、日陰植物園草引き整備
ならやま池生物調査、池の整備

4月10日

- <里山Gr> 伐採済コナラの薪・焼却用玉切り
枝葉整理、燻蒸処理
- <工房-Gr> 里芋植え付け、葉菜類播種
- 果樹園：梅の害虫（アブラムシなど）対策
- <景観Gr> ならやま入口付近草刈り
移植（彼岸花、花生姜、秋明菊等）
池の整備

アクセス

- ① JR平城山駅下車、東口から南へ徒歩10分
- ② 近鉄奈良駅・バス13番乗り場
8：27発、高の原行き（平日）
- ③ 近鉄高の原駅・バス1番乗り場
8：38発JR奈良駅行き（平日）
- ②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」
で下車 徒歩7分



- ◆ 携行品：弁当、飲み物、軍手など



- ◆ 環境保護のため、お椀、箸、
コップなどは各自ご持参下さい。
- ◆ 連絡先：木村 裕

*.+ ★ ————— *.+ ★ ————— *.+ ★ —————

4月17日

- <里山Gr> 伐採済コナラの薪・焼却用玉切り
枝葉整理、燻蒸処理
- <工房-Gr> 茄子・唐辛子類畑の準備
果樹園：梅林の草引き
第五地区 ツツジの植付け
- <景観Gr> 彩の道草刈り
山野草園整備柵作り
ならやま池生物調査、池の整備

4月24日

- <里山Gr> 伐採済コナラの薪・焼却用玉切り
枝葉整理、燻蒸処理
- <工房-Gr> サツマイモ畑準備、豌豆畑カラス
対策網設置
- 蕎麦畑：緑肥用ヒマワリ播種のための耕起
- 果樹園：梅林の草引き
- <景観Gr> ならやま会館前草刈り
夏花植えつけ
池の整備





行 事 案 内



4 月例会ご案内

「背割堤の桜を愛でる」

－ 歴史の町京都・八幡市を訪ねて －

京阪橋本駅前から「石清水八幡宮（男山）」を経て淀川河川公園「背割堤」へ。

堤沿いに植えられた約 250 本のソメイヨシノの巨木が、約 1.4km にわたって続く景色はまさに圧巻です。

広々とした河川敷で花見を楽しめます。

午前中は、壮大な「石清水八幡宮」を参拝し、その展望台からの眺めも「天王山」を望む雄大なものです。

「八幡宮（男山）」のふもとにある歴史の町「八幡市」も、いくつかの史跡が楽しめます。

陽春にふさわしい楽しいハイキングになることを期待しています。

①日時：4月7日（月）

②場所：「石清水八幡宮」・「八幡市」・「背割堤」

④コース；約 8.5 km

京阪橋本駅→エジソン記念碑→石清水八幡宮・展望台→高良神社・航海記念塔→背割堤（花見・昼食）→京阪八幡市駅（解散）

※コースはすべて徒歩

⑤集合；京阪橋本駅前改札口 9時30分

④交通；大和西大寺 8：37－近鉄急行京都行－9：05 桃山御陵前－改札口を出て右へ約 3 分で京阪電車乗場 京阪伏見桃山 9：13－京阪普通中之島行－9：26 京阪橋本

⑤携行品；ハイキング装備 お弁当（花見）

担当八木順一 寺田孝

歴史文化クラブ 4 月例会

（記紀シリーズ）

「神武東征の史跡を巡る」のご案内

春爛漫。神武天皇の足跡を求めて、宇陀市（菟田野・阿騎野）を訪ねます。神武天皇の伝承が色濃く残る宇陀路は、神話に始まり記紀、万葉、戦国時代・近世に至る歴史ロマンに溢れています。今回は、マイクロバスを活用して、とことん迫ります。多数のご参加をお待ちします。

1、日 時 4月22日（火）8：30 出発

2、集合場所 中小企業会館前（近鉄奈良駅東）

3、行程（マイクロバス利用につき雨天実施）
近鉄奈良駅出発⇒伊勢街道札の辻⇒墨坂神社⇒八咫鳥神社⇒阿紀神社（かぎろひの丘）⇒宇太水分神社⇒桜実神社⇒宇賀神社（血原）⇒青蓮寺⇒近鉄奈良駅着（16：30の予定）

4、参加費用 2500円

5、定員 25名（申込順に受け付けます）

6、申込期限 4月7日（満員になり次第締切）

7、申込 下記へメールか Fax で申込んで下さい。

歴史文化クラブ事務局 古川祐司宛

（担当世話人 川井秀夫、弓場厚次、古川祐司）



第13回通常総会開催予告

第13回通常総会を下記の日程で開催いたします。

議案は、平成25年度活動実績と収支報告、平成26年度活動計画(案)と予算(案)並びに幹事の選任等についてです。

みなさまのご出席をお待ちしております。

日時：5月17日(土) 14:00~15:00

会場：奈良市中部公民館 4階 第4講座室
(奈良市上三条町23-4)

問合せ：事務局 塩本



アースデー2014 in なら

今年もならコープさんから「アースデー」イベントへの参加要請がありました。当会も自然観察と自然工作で参加して盛り上げます。

会員のみなさまも会場で「飛鳥の春」を満喫しながらご家族、仲間の方々と楽しみください。



とき：4月20日(日) 10~15時
ところ：明日香村 飛鳥歴史公園 石舞台広場
なかみ：

- ・自然観察：「植物ってすごい！」会場周辺を歩きます。(自然教室チーム担当)
- ・自然工作：笹竹の「こいのぼり」をつくります。(自然工作チーム担当)

(「アースデー」は環境問題を自ら考え、行動する人の輪を広げていく目的で開催されます。)

仲間入りしました②

どうぞよろしくお願いいたします 森本 真弓
庭先の雑木林のウグイスの鳴き声が日ごと滑らかさを増しています。

この春より皆様のお仲間に加えて頂きます森本でございます。高の原地区に住まいしてかれこれ40年になりますが、長年日中の殆どを大阪で過ごすという、いわば奈良在住大阪市民の生活を送っていました。

リタイア後の生活の中で、地元について余りにも知らないこと、今浦島の気分に関すること多く些かならずショックも。

でもまあ雑誌名のごとく「毎日が発見」で、わくわくドキドキときめき感を楽しんでいます。

「明るく！元気に！楽しく！そして無理をせず！」を指標に、わくわくドキドキ、ゆるりゆるりと歩めればと考えています。



ご指導のほどをお願いします 山内 京子

この度、「奈良・人と自然の会」へ入会させていただくことになった山内です。

鹿児島から大阪に出てきて40年、土と草木から遠ざかっていました。が、花や野菜の栽培、生き物の飼育に興味を持っています。

「明るく！元気に！楽しく！そして無理をせず！」という活動のモットーが気に入り自由な雰囲気のところかなと思い参加してみたくなりました。

シニア自然大学で学ぶ中で、自然環境を守っていくには、いろいろな課題があることがわかりました。

これから、広いエリアで、多くの活動をされている所で一つでも多くのことを学び、少しでも地域貢献の活動に加われたら嬉しいと思っています。





行事案内

歴史文化クラブ 5月研修会

「五条市の歴史散歩」の予告

風香る5月は、大和盆地の西南に位置する歴史と文化の町、五条市を訪ねます。

天平の昔から人々が営んできた足跡を残す遺跡や古墳も多く、また江戸末期の天誅組の変の地としても有名です。

国宝の八角円堂や梵鐘の栄山寺、天誅組の櫻井寺、井上内親王を祀る御霊神社、また旧伊勢街道の賑わいをしのぶ江戸時代の商家を復元整備した新町通りも必見です。

市中央を流れる吉野川、色とりどりの花が咲く歴史の町の風情をたっぷり楽しみましょう。

- 1、日時：5月19日(月) 8:30集合
- 2、場所：近鉄奈良駅東 中小企業会館前
- 3、参加費：2500円(マイクロバス代)
- 4、定員：25名
- 5、担当世話人：川井、西谷、中井



5月例会予告

「新緑の生駒山麓を歩く」



5月の例会は、植物観察をしながら生駒山麓を歩きます。奈良県と大阪府にまたがるこの山は、親しみを込めて「いこまさん」と呼ばれる自然豊かな所で、多くの人がハイキングを楽しまれています。

今回は、生駒山麓をフィールドとして活動されている飛田太一郎さんに案内をお願いしました。

5月の風爽やかな季節に、緑いっぱいの生駒山麓の植物を観察しながらゆっくり歩いてみませんか。たくさんの方の参加をお待ちしています。

1. 日時：5月14日(水)
9時30分～15時
2. 集合：近鉄 生駒駅
3. 担当：自然教室チーム
(高本 平岡)



詳細は、5月号でお知らせします。



奈良学クイズ

【問1】 右の書の筆者は、2枚の写真と深い関わりがあります。書の筆者名を漢字4文字でお答えください。

【問2】「ふせこせば まわりがみたと…」
万葉集の一首の上五・七について、ことばを並べ替えています。元の歌はどのような歌ですか。お答えください。

【問3】写真の建造物を漢字2文字と平仮名でお答えください。

世人以樂殺不
論之
夫求古賢之



編輯子一ム・代表 鈴木末一